

平成 22 年 12 月 8 日

「新しい公共」推進会議

座長 金子郁容 様

日本アイ・ビー・エム株式会社

最高顧問 北城 恪太郎

政府の取組に対する「新しい公共」推進会議からの提案（素案）についてのコメント

「新しい公共」推進会議からの提案をお送りいただき、ありがとうございます。以下にて、政府の取組に対する提案について（税と予算以外）、3点コメントをお送りいたします。

記

1. 「新しい公共」に係る政策の推進と評価のプロセスを実現する：

政策の推進が確実に成されたかどうか評価をし、さらなる改善のための PDCA をまわす基盤として、実施期限、明確な評価の尺度、責任省庁を明確にした工程表を作ることを提案します。

2. 市民セクター等と行政の関係のあり方：

市民セクター等と行政の連携や人材の相互交流の輪に、企業も加え、官民 NPO 人材交流をインターンシップも含めて、実施することを提案します。『(5)「支え合いと活気のある」社会を新しい成長につなげる』にあるように、つながりを多様化することにより、新しい発想による社会のイノベーションが起こり、「新しい成長」が可能となると考えます。

3. 「新しい公共」の担い手としての企業のあり方：

企業の社会貢献活動も、従来の寄付中心から、本業を活かした地域貢献、得意分野に特化した活動の実施など多岐にわたっており、新しい時代にあったものを模索中とも言えると考えます。社会貢献に積極的に取り組んでいる企業に対する大臣表彰などを行い、企業の対応を促すインセンティブとするとともに、ほかの企業にとっての参考例を広く周知することにより、取り組みを加速化する施策を実施することを提案します。

以上